

## “ラストエンペラー” 溥儀

○満州事変（その2）

(3) 満州事変、1931～1933年（その2）

第2次（若槻礼次郎）内閣（その2）

[「積極外交」を主張する内務大臣は、立憲政友会との連立を唱え、  
「協調外交」を主張する幣原喜重郎外相は、それに反対した。]

閣内不一致となり、(≒満州事変への対応に苦心し、) 総辞職。

(3) 満州事変、1931～1933年（その3）

(犬養毅) 内閣

与党は(立憲政友会)。

(満州国) 建国宣言、1932年。

清朝最後の皇帝であった([宣統帝]溥儀)を

(執政【 皇帝])とした。

日本の傀儡政権であった。

1934年、溥儀は皇帝となる(≒帝政を開始した)。

\* 満州国建国 & 満州国の運営に、犬養毅内閣は反対であった。

↳ 五・一五事件へ

## “一人一殺！！”

○政党内閣の崩壊と国際連盟からの脱退

(1) 軍部・右翼

(軍部) …政府に対して、陸海軍などの軍人上層部を中心とする政治勢力。

日露戦争以後、政府の政策をも左右した。

(右翼) …国家主義的・反共産主義的思想の行動集団。

[日本！ テロ！ 戦争！ 天皇陛下！！  共産主義(=左翼)！]

(2) (国家改造運動)

時勢のゆきづまり(≒1920年代以来の恐慌の連続)を、

陸海軍の青年将校や右翼は、非常手段によって、

元老・財閥・政党・官僚などを打倒しようとした。

このことを国家改造運動という。

昭和維新ともいった。

(3) 右翼による直接行動

(三月事件)、1931年

右翼指導者(大川周明)らによる最初の軍部クーデタ計画。

↳ 北一輝らと、国家主義団体 猶存社(ゆうぞんしゃ)を結成した。

将校の秘密結社 桜会が軍部内閣樹立を立案したが、未発に終わった。

↳ [橋本欣五郎(きんごろう)らが結成した]

(十月事件)、1931年

再度、桜会が大川周明らとともに軍部内閣樹立を立案したが、未発に終わった。

\* 三月事件 & 十月事件、ともに五・一五事件(…1932年)の前年におきている。

(血盟団事件)、1932年(…五・一五事件と同じ年)

井上日召ら、血盟団が、「一人一殺」をスローガンとし、

前蔵相(井上準之助(…金解禁失敗))と

財界の中心者であった三井合名会社理事長(団琢磨)を暗殺した。

## 問答無用！！

(3) 右翼による直接行動（その2）

(五・一五事件)、1932年

満州国の承認に反対した首相(犬養毅)が

海軍青年将校を中心とする一団に暗殺された。

【←→二・二六事件は1936年】

\* 1924年に成立した、加藤高明内閣より継続してきた

(政党内閣)が崩壊(≒「憲政の常道」が終焉)し、

第2次世界大戦終了後まで復活しなかった。

(4) (斎藤実) 内閣

五・一五事件後に成立。

軍部・政党・官僚などさまざまな勢力から

閣僚を出させ、「(挙国一致内閣)」と称した。

【このあと終戦まで、すべて軍部を中心とする「挙国一致内閣」である】

満州国を承認。日満議定書を締結[次に説明]。国際連盟を脱退[後で説明]。

斎藤実は、【海軍出身】。

(5) 満州事変、1931～1933年（その3）

(日満議定書)、1932年

↳ 五・一五事件と同じ年

満州国を承認した斎藤実内閣が、満州国と締結した協定。

満州における日本利権の承認、日本軍の駐屯などを定めた。